

# 令和4年産 果樹情報（第6号）

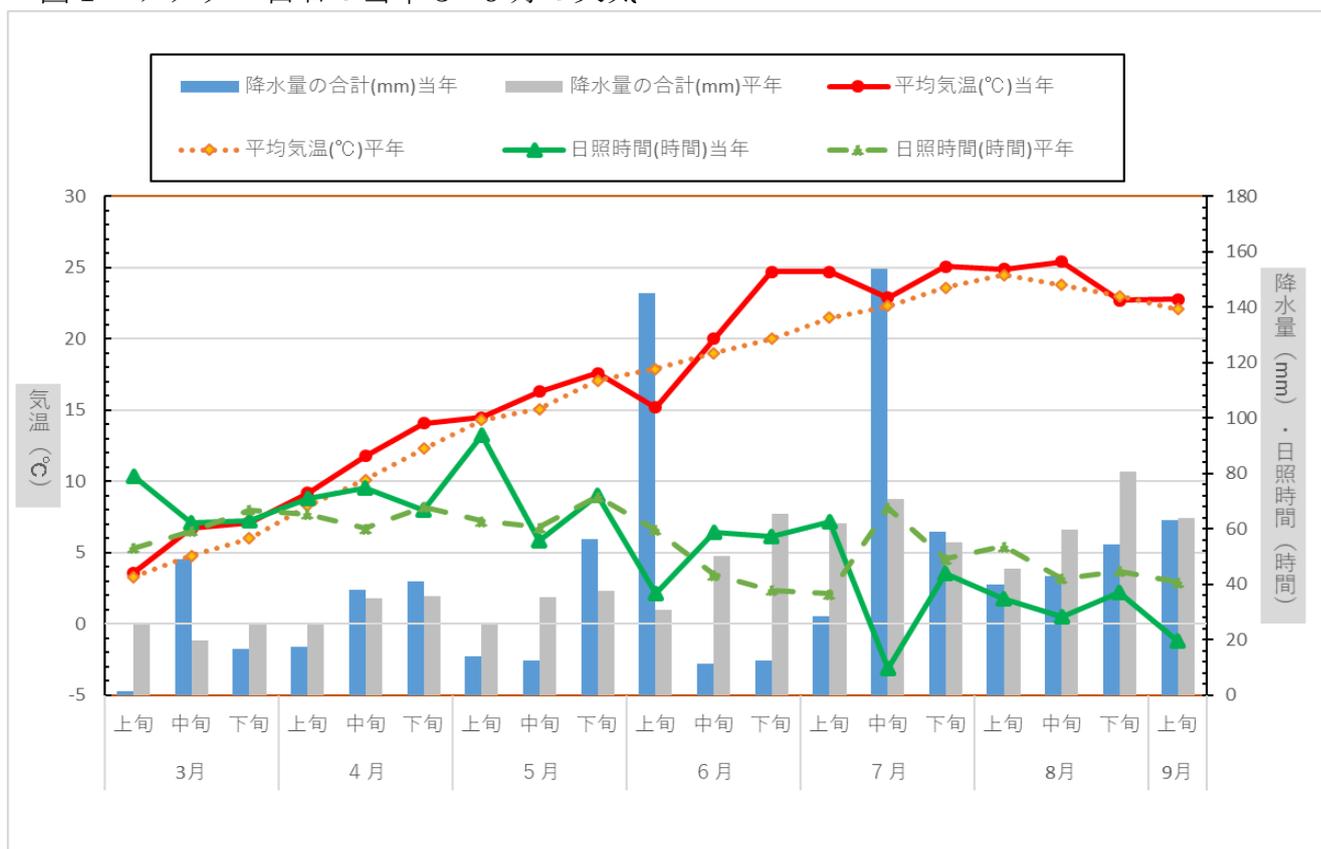
令和4年9月22日  
宮城県大河原農業改良普及センター

日本なしやももは、収穫後の防除を必ず実施しましょう。

## 1 気象経過

アメダス白石の8月（図1）は、平均気温は平年よりやや高く推移し、降水量は平年より少ない状況でした。日照時間は平年値より少なく推移しました。

図1 アメダス白石の当年3～9月の天気



## 2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

果樹作況調査ほにおける果実肥大は、りんごのふじが平年よりやや小さく、蔵王なしの豊水は平年並の肥大です（表1）。

表1 9月9日現在の果実肥大状況（単位：mm）

樹種	品種	地点	令和4年		令和3年		平年値		平年比 (%)	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	ふじ	白石・郡山	71.8	75.4	71.8	76.9	73.3	78.5	98	96
なし	豊水	蔵王・高木	76.7	87.8	---	---	76.0	87.7	100	100

\* 令和3年の蔵王・豊水は、凍霜害で結実が極端に少ないため、データ省略

### 3 樹種ごとの管理

#### (1) りんご

##### イ 中晩生品種の着色管理

- ・ 葉摘みは中生品種で収穫の約 25 日～30 日前，晩生品種で収穫の約 30 日～40 日前までそれぞれ 2 回程度に分けて実施します。
- ・ 晴天の早朝に葉摘みを行うと果実の温度が急に上がって日焼けを起こしやすいため，出来るだけ果実温度の上昇した日中に実施します。

##### ロ 病虫害防除

###### 1) ハダニ類

管内では発生が少ない状況ですが，今後の天候次第では多くなることが予想されますので，園地をよく見回り，ハダニ類が 1 葉あたり 3 頭以上寄生している場合は薬剤防除を実施します。

###### 2) その他

- ・ 品種による収穫時期の早晩を考慮し，収穫前日数制限に注意して使う農薬を選定します。
- ・ 晩生種で最終散布を早めに切り上げると，果実に斑点落葉病，褐斑病，すす点病，すす斑病等が発生したり，シンクイムシ類等の食害を受けたりする場合もあるので，生育状況と収穫時期にあわせた防除を行います。
- ・ 被害果（葉，枝）は，翌年作の感染源になりますので，園外に適切に処分します。

#### (2) 日本なし

##### イ 豊水，あきづき，新高の収穫

- ・ 落果防止剤を使用すると成熟が早まる場合がありますので注意します。
- ・ 豊水は，適熟期の収穫に努め，同一樹でも主幹から 2m 以内の果実は熟期が遅れるので数回に分けて収穫します。ただし，過熟果は市場へ出荷できないので，収穫遅れのないよう注意します。
- ・ あきづきは，地色が見分けにくいので，果実全体が黄褐色になり，ていあ部の緑色がリング状に残った状態で収穫します。
- ・ 新高は，樹冠外周部に着果した果実や大果を優先して収穫します。

##### ロ 病虫害防除

###### 1) 黒星病について

今年の発生は少なめで推移してきましたが，発病した果実については二次伝染源となるので見つけしだい取り除き，園外か地中に埋めるなど適切に処分します。

翌年の感染を減らすためには，秋季防除と落葉処理が非常に大切です。

###### <秋季防除>

芽のりん片への感染を予防するために行います。

防除時期は，りん片生組織が露出する時期から落葉率 80% までの時期（11 月上旬頃まで）に，確実に 2 回は実施します。果実が残っている場合は，薬剤の収穫前日数や葉害の発生に注意します。

薬液量は 10 a 当たり 300 L を確保し，散布むらのないよう園地の隅々まで丁寧に散布します。



あきづき ていあ部

表 3 秋季防除に使用するなしの黒星病に登録のある薬剤(一部抜粋)

薬剤名	有効成分	系統	FRAC	希釈倍数	使用時期	散布液量	使用回数
オーソサイド水和剤 80	キャプタン	その他	M04	600～1,000 倍	収穫 3 日前まで	200～700 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	9 回以内

- ※ 上記事例について、令和 4 年 9 月 15 日現在の農薬登録状況を確認しています。また、使用回数はその農薬の使用回数を示していますので、農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意します。
- ※ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用します。
- ※ 隣接園への農薬飛散防止対策を講じます。
- ※ 収穫後の農薬使用については、翌年の農薬使用回数にカウントされます。
- ※ オーソサイド水和剤 80 は、石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤及びマシン油剤との混用は避けます。

#### <落葉処理>

被害落葉は翌年の重要な第一次伝染源となるので、園内の落葉は、土中に埋めるなど適切に処分します。また、ロータリー耕によるすき込み、草刈機による粉砕だけでも効果が期待できますので、確実に実施します。

#### 2) シンクイムシ類

被害果は水づけ等により適切に処分します。

### (3) もも

#### せん孔細菌病の収穫後の防除

発生の多い園地では、収穫後の 9 月上旬から薬剤散布を 2 週間隔で計 3 回行います。また、適切な肥培管理を行って樹勢回復を図ります。

表 4 収穫後に使用するもものせん孔細菌病に登録のある薬剤(一部抜粋)

薬剤名	有効成分	系統	FRAC	希釈倍数	使用時期	使用回数
4-12 式ボルドー液	硫酸銅五水塩 ／生石灰	無機殺菌剤 ／その他	M01	-	-	-
IC ボルドー 412	塩基性硫酸銅	無機殺菌剤	M01	30～50 倍	-	-

- ※ 上記事例について、令和 4 年 9 月 15 日現在の農薬登録状況を確認しています。
- ※ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用します。
- ※ 隣接園への農薬飛散防止対策を講じます。

## 4 台風対策

気象庁が発表する最新の台風情報等に注意し、農作業及び農地・農業用施設の見回りについては気象情報を十分に確認し、危険な天候がおさまるまで行わないなど、人命を最優先に二次災害の防止の徹底をお願いします。

#### (1) 事前対策

- ・ 収穫可能な果実（日本なし：豊水、あきづき りんご：陽光 等）はできる限り収穫しておきます。その場合、農薬散布から収穫までの経過日数に留意します。
- ・ 強風に備えて事前に防鳥ネットや支柱の点検・補修を行います。また、倒伏しやすい樹体は支柱により補強します。
- ・ 強い風雨が予想される地域では、りんごの斑点落葉病、なしの黒星病、もものせん孔細菌病等の感染拡大が懸念されるため、薬剤散布を行うとともに、り病している葉や果実は園外へ処分します。
- ・ 排水が速やかに行われるよう園地周辺の集排水路の点検、清掃を行います。

## (2) 事後対策

- ・ 強風等により倒伏した場合は、健全な根を切らないようにできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。枝裂けした場合は、針金、ボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗ります。
- ・ 被害により樹勢が弱まっている場合は、薬害が発生しないように留意しつつ病害虫の防除を実施するとともに、樹勢に見合った適切なせん定、施肥及び摘果を実施します。
- ・ 落果して土壌に触れた果実は果汁原料用には利用しない等、適切に処分します。

### 自然災害等のリスクに備え、農業保険に加入しましょう。

農業経営には、自然災害による収量減少や市場価格の下落をはじめ、様々なリスクがあります。農林水産省では、収入保険と農業共済の2つの保険（農業保険）を用意しています。農業保険は公的保険であり、保険料の一部は国が補助します。また、万一の大災害時にも国の再保険でしっかり補償します。